スキー回転

湯浅 W杯3位

【マドンナディカンピリオ（イタリア）＝共同】アルペンスキーワールドカップ（W杯）は18日、当地で男子回転第3戦を行い、湯浅直樹（スポーツアルペンク）が2回の合計1分44秒78で3位に入り、W杯で自身初の表彰台に立った。アルペン男子の日本勢の表彰台は、2006年3月に回転で佐々木明（ICI石井スポーツ）が2位となって以来で、岡部哲也、木村公宣、佐々木に続いて4人目の快挙。

湯浅は2回目に2番目に速い50秒65で滑り、一気に順位を上げた。佐々木は1回目で途中棄権した。2回とも最速だったマルセル・ヒルシャー（オーストリア）が合計1分42秒50で今季2勝目となる通算14勝目を挙げた。

3位に入った湯浅直樹の2回目＝マドンナディカンピリオで（AP）

挑戦83度目 初の表彰台

旗門ぎりぎりを攻め、湯浅が硬くしまった急斜面を一気に滑り降りてきた。「ラストの6旗門から何も覚えていない」。コースアウトしそうなスピードで前のめりにゴールすると、そのまま転倒し、動けなくなった。研き澄ました集中力で腰痛を抑え込み、快挙を成し遂げた。

2011年の世界選手権は6位で、昨季はW杯で5位が2度。こつこつと着実に力を蓄えてきた29歳のレーサーは通算83度目のW杯で初の表彰台を「奇跡ではなく積み重ねの一つ」と言った。

1回目26位で、5番目にスタートした2回目は「練習の滑りがうまく出た」という。結果的に2回目は2位のタイムで残り2人まで電光掲示板の一番上に名前が残った。

今季開幕直前に出た腰痛が何度も再発し、この大会の前日も自力で歩くことがままならなかった。それでも「滑っている間は痛くない。集中力が極限の状態なので」という。1回目の後はスタッフ2人に抱えられない

集中力で腰痛克服

と動けない状態だったが、約2時間半後の2回目に驚異的な滑りを披露した。スキー板をつえにして表彰台に上った湯浅を、日本のライトナー・チーフコーチは「こんなタフな選手は世界中にいない」と称賛した。

「好成績が出るほど、自分の滑りに自信がつくし、動きも良くなる。この勢いで上がっていきたい」と湯浅。来年2月の世界選手権、来季のソチ五輪に大きな弾みとなった。（共同）

湯浅　直樹（ゆあさ・なおき）アルペン男子回転で06年トリノ五輪7位。10年バンクーバー五輪は出場を逃した。11年世界選手権6位。W杯ではこれまで昨季2戦連続で記録した5位が最高だった。北海道東海大出。177センチ、72キロ。29歳。北海道出身。

僕らしい滑り　一問一答

湯浅は初のW杯の表彰台にも冷静だった。

―ようやく表彰台。

世界選手権の6位、W杯の5位が2度あっての3位だから、誰も僕の力を疑わないと思う。

―2回目の快走。

もともと調子は悪くなかった。いかに練習の時のパフォーマンスをレースで出すかが課題だったが、2回目はいつもの僕らしい滑りができた。

―予感はあったのか。

いける予感はいつもしている。だいたい裏切られるけど、違った。

―2回とも滑った後は腰痛で動けなかった。

滑っている間は痛くない。かなり高い集中力がないとできないことだと思う。でもゴールして一度止まってから動きだそうとすると信じられないぐらいの激痛が走る。

―暫定1位の間はどきどきしたか。

それよりも痛みで震えが止まらなかった。自分の初めての表彰台って、こんな形できてしまうのかと思った。（共同）